

たわわ



地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2003年1月28日

30号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

新しい年を迎えて

＝しなやかに、力強く、息の長い活動を＝

新横浜のビル街を抜けると 大きな国際競技場の向こうに、真っ白に雪化粧した富士山が大きく見えました。その裾に連なる山並みもすっかり白く冬景色です。横浜にもすぐそこに山々が・・・ もうずっとこんな景色を見ていなかったような気もしたのですが、実は何年も通い続けた道なのです。ゆとりのない生活の中で、失う視点もあることを痛感しました。

遠くまで大きく見渡す地域、ポイントを絞って見つめる地域、活動のエリア.... と、この“地域”のなかで重度の障害者が伸びのびと息づいて暮らしているということが、胸に迫っていきさか身の引き締まる気分にもさせられた年の始めでした。

* * *

さて、私たちが活動を始めた17～8年ほど前に比べれば、いろいろな福祉制度もでき一般的な社

「たわわ」について

今月号で「たわわ」も30号です。

途中スタッフの交替ありましたが、8月の休み月を除いて、ずっと継続することができているのは、嬉しいことです。

多くの会員の皆さんから励ましの声を寄せられていますので、「30号を記念して」の頁を増やしました。載せ切れなかった方は、今後の号で掲載させていただきます。これを機会に会員の皆さんの活発なご参加を期待します！

会福祉は徐々によくなっていますが、重度の障害者にとっては、まだまだ不十分で、そのことが私たちの活動の困難さでもあります。私たち「ささえる会」は、今年も1. 重度重複障害者がともに暮らすグループホームの設立・運営の支援（第2館目に取り組み）2. 情報の発信（重度障害者の生活や、支える会の活動を伝える、写真展や「たわわ」の発行）3. 学習会 4. 活動のための資金作りなどの活動を行いますが、この活動を通じて、重い障害者の地域生活の支援をするとともに、だれにも住みよい社会を作るために、互いに励まし合ってささやかな努力をして行きたいと思います。そしてこの活動をより力強く息の長いものとして受け継いで行く人々を増やしていきましょう！



地域の支えあいに感謝！

サンヴァリエ日吉自治会
サンヴァリエ日吉ボランティア会会長

若木 信子

いま私の家は85才の夫と2人ぐらしです。夫は介護保険の「要介護1」の認定を受けて下田地域ケアプラザの「デイサービス」とショートステイすいらんの「ショートステイ」を利用しながら、在宅介護を続けています。私も高齢ですので老々介護の厳しさを身をもって体験しています。昨年10月には私が腰を傷め急に歩けなくなり救急車で関東労災病院に入院、4日で退院したのですが、11月に夫が家の中で転び大腿骨骨折で救急車で関東労災病院の整形に入院、手術、リハビリと12月末まで大変な思いをしました。しかし、民生委員さんを始め地域の福祉施設や、医療機関等の方々に支えられ、老々介護の困難を無事にクリアでき、新年は自宅で迎えることができました。子ども達の奮闘も加わり、あらためて、地域での福祉関係の方々のネットワークが素晴らしく、心から感謝致しました。

いま高齢者、障害者をめぐる状況はきびしく、殊に高齢者福祉関係では老人保健制度の見直しと、国民健康保険の改正、いま厚生労働省が検討している「介護保険制度の見直し」による保険料の引き上げなど、私ども年金生活者にとって負担がふえて大変です。安心してその地域に住みつけられる為に、これまで築いて来た下田の「支えあい」を強めて行きたいと思います。

新年に想うこと

日吉地区ボランティア連絡会会長

門脇 トモ子

お寒い日々が続いております。新年にあたり何か感想をとの依頼を受けて色々と考えました。昨年は国の経済的な面などで、あまり良い事が無かった一年だった様に思います。高齢、少子化時代が続く老人は年々増加するばかりです。元気なお年寄りも趣味に生き、老人会等で充実した毎日を送っておられますが、半面では足腰を痛め病院通いの毎日を送っている方も増えて、私達は老人配食や通院のための送迎等出来るだけのお手伝いをして参りました。

また障害を持った皆様は自分の出来る能力を精一杯活かして充実した日々を持たれ、それに対して私共はボランティアとして、出来る限りお手伝いしてきました。

「共生」という言葉がありますが、この共生の気持は大変大事な意味を持ちます。地域で共に生きて行くために、一番基礎になる精神ではないでしょうか。私共ボランティアは、この共生の心を常に忘れずに足りないところを補いながら今年も元気に過ごしたいと思います。

障害のある方達も自信を持って社会の様々な分野で持てる力を十分に発揮して頑張ってください。皆様にとって良い一年で有ります様にお祈り致します。



日吉地区社会福祉協議会会長

薄井 芳夫

◇◇エールを送ります

広報紙「たわわ」毎回読ませて戴いています。30号になりましたこと、お目出とうと共にご苦労様を申し上げます。読むことにより毎日の活動が目に浮かびます。障害をもつ皆さんのリハビリや訓練は大変でしょう。かかわっている皆さんの日々の努力に感謝しています。

せわしさにかまけてお手伝いも出来ず心を痛めて居ります。皆様の益々のご健康を祈りつつエールを送ります。

新吉田連合町内会会長

金子正雄

◇◇ もうすぐ春が…

「たわわ」発行のたびごとにお届けいただき皆さんの活動、健康状態などよく知ることができありがとうございます。

暖冬予想が、12月上旬に降った珍しい雪に始まり、その後寒い冬に一変してしまいました。本年は、インフルエンザの流行予告どおり各地の学校から学級閉鎖の報告があるよう、注意と予防に心掛けねばならないと思います。ホーム入居の皆さん、それに介護に当たられる方には大変なご苦労とお察し致します。

もうすぐ梅も咲き、春はやってきます。風邪を引かないよう皆で励まし合い頑張って待ちましょう。

(社福) 横浜市港北区社会福祉協議会事務局長

門倉 晴義

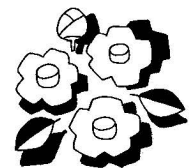
◇◇ 「民」の力を結集して・・・

新年あけましておめでとうございます。「ボランティア国際年」でスタートした21世紀は、『共生と連帯の世紀』とも言われています。

『社会福祉の基礎構造改革』がすすむ中、成立した社会福祉法では「社会福祉協議会は『地域福祉の推進を図ることを目的とする団体』であること」が明確にされました。

港北区社会福祉協議会は、中田新市長がすすめる『民の力が存分に発揮される社会の実現』を目標に、正に「民」の力が結集した団体として、その機能を活かし、地域福祉の推進に努力して行きたいと考えています。

ともに活動をすすめていきましょう！





「百年前」

衆議院議員 鈴木 恒夫

私は新しい年を迎えると、手持ちの年表誌で百年前の出来事に目を通すことにしています。とくに今年は純朴な農民だった父が生きていれば百才になる年なので、父の生まれた頃は…と特別に関心がありました。

当時の国内政治は今と同じような政争続き。人間社会の業（ごう）だなあと、つくづく思います。ただ、科学技術は恐るべき進歩。人間が飛行機を発明して、初めて空を飛んだのが1903年（ライト兄弟の複葉十六馬力の飛行機）。百年後の今、いったいどのくらいの数の飛行機が、たった今、空を飛んでいるのでしょうか。もはや飛行機は、空のバスの様相。それどころか、夜空を見上げてみましょう。お気づきでしょうか、これまで見たこともない大きな星が、いくつか光輝いているのを。米、露両国などの宇宙飛行士が建設中の宇宙ステーションです。

ちなみに当時の日本の人口は約4600万人で、百年間で3倍近くになったのです。ところが、2007年から日本の人口は減少し始める…。

年の始めぐらい、少し遠くに目をやると、目の前のことは、「チイセエ、チイセエ」とあきらめがつきます (?!)。

◇◇ 家族全員でお手伝いを…

小栗 由美子

活動ホーム「しもだ」の皆さんと私がコーラスを通して、お友達になって15年になりますが、その間、私の家族の理解と協力がいつもささえになり、ある時は背中を押れて月日が過ぎてゆきました。

昨年春からは、主人が休日の送迎ボランティアを始めました。まだ現役のサラリーマンなので土、日、祭日のお手伝いだけですが、今までと違って共通の話題がもてるようになりました。グループホーム「よつば」の皆さんの体調などを気にしている様子を見ていると「ほんの少しだけれど参加してよかったなあ」と思います。

これからも家族全員で（ボランティアというよりも自分のためにも）お手伝いを長く続けてゆきたいと思っています。

◇◇ 自立への環境作りに・・・

宮田 忠夫

活動ホームのボランティアとなって7年。私は以前から高齢者用のデイサービスと子供達（入所者）が統合してあるような処で一緒に過ごせる生活ができればと、そのような施設が出来ることに期待しているのですが。地域での生活に必要な福祉サービスは圧倒的に足りないのが現状。よつばグループホームが出来ましたが、11名全員のお子供さんが地域で自立した生活を送るための環境作りを目指し、少しでもお役に立てればと思っています。



「たわわ」の役割に期待

フォーラム港北教育相談室

川口 たまえ

《「TAWAWA」の30号発行、おめでとうございます!》

私を支える会に入会したのは平成12年9月です。そのときに頂いたのが、6月発行の創刊号でした。それ以来「たわわ」は、支える会の状況をととても分かりやすく伝えると共に、ボランティアさんや会員の方から寄せられた心に響く文章に溢れていることから、毎号とても楽しみに読ませて頂いています。

支える会の、人にはやさしく、活動は着実で力強い在り方に心からの共感を覚え、私の障害者に対する自立支援活動の手本とさせていただいています。

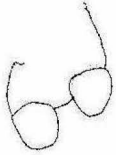
今、障害者を取り巻く社会制度などが大きく変わっているなかで、これまで以上に情報や仲間が重要になっています。「たわわ」の果たす役割に期待をして、益々発行部数が増え活動の輪が広がることを願っています。

◇◇ おげんきですか…?

阿部 八重子

最近の寒さは年のせいかわ身にしみます。寒いからと家にばかりとじこもれば心身ともに駄目になるばかりですし、無理のない様に動かす様にしています。

健市も最近私に反抗して困らせています。本当に健康に生きて行く事は難しい事です。



めがねの声

小堀さんが編集をしている時 障害者の思っていることを書いてと言われました。

私は、連載はむずかしいかなと思いましたが毎月何か思うことがあって、とうとう今まで終らずに続いて来ました。

だんだん自分のことを 書きたくなって 「個人的な話になったな」と反省したりすることもあります。でもとても いろいろなことを見たり 聞いたりするときも、「このことを書いて知らせようかな」と思うと、しっかり見るようになったと思います。

「めがねの声」がなければ、さらっと流していました。毎月書くのは、たいへんけど幸せなことだとも思います。私も皆さんに 読んでいただけるのが うれしいです。

「このことを障害者だったら どう思うのかな」と言うようなことがあれば教えて下さい。

私にわからなければ 他の障害者のいけんを聞いてお知らせします。これから、この「めがねの声」が そんな 内容になっても 良いのでは、ないかと思っています。

今月のよつばホーム

三田 俊介

僕は、プロの一流の役者を目指して、日々トレーニングしています。日本では、役者とタレントがごっちゃになっていて、タレントがドラマ、映画、歌を歌うとすぐ役者、歌手デビューと騒がれます。

ニュースのテロや北朝鮮の事も全てアメリカ側のニュースしか流れていないような気がします。喧嘩になる根本を詳しく360°からみた情報を流さない、今の日本で求められている物が低いから思うのですが、全てが適当、偽りで本音が無いような気がします。

でも、ここには(よつばホーム)偽りが無く全て本音の様な気がします。初めてバイトに入った日は、やさしい色というかニオイがしてきました。今思うとみんな心が開いているからそういう感じ方が出来たのだと思います。心を開く事が難しい社会、心を開くという事の知らない人達、人を傷つけないと安心出来ない人、他人の意思に流されてしまう人、きちんと自分が見える人、いろんな人がいる中で、今、どれだけ心が豊かなのだろう。

少なくとも、よつばホームには、それが満ちあふれているような気がします。

僕も見習い人間として、役者として一步一步本物になるように目を開いて活着ていこうと思います。

(今月は、昨年の8月よりバイトで来てもらっている三田俊介さんより原稿を頂きました)

入居者家族の声

よつばホーム入居一年を過ぎて

高島 慶子

グループホームへの入居、サンヴァリエでの連泊の積み重ねはあったものの、親元から離れての生活は正直不安がありました。本人も多少不安はあったと思いますが、それ以上に期するものがあつたようです。新しい環境にも比較的早く慣れ、楽しそうに報告する姿を見て安心しました。

活動ホームでのことグループホームでのこと等よく話していますが、職員、ボランティアの方々の熱意とやさしさに支えられているのがよくわかります。活動ホームで日中の活動、その後のグループホームでの生活どちらも充実しているようです。これからも多くの人達に支えられながら生きていくことと思います。よろしく願い致します。私もグループホーム二番館目にむけてできることをがんばって行きます。

福田 定子

早いもので、ホームが始まって一年余りが過ぎてしまいました。次郎はホームでの暮らしが大好きで私はとても嬉しく思っております。支える会始め職員および調理ボラさんやヘルパーさん等のご支援のおかげと深く感謝いたしております。今後共よろしく願いいたします。

